

柿生文化

平成23年10月18日  
 柿生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所：川崎市麻生区上麻生6-40-1柿生中学校内  
 電話：044-988-0004 (柿生中学校)  
 第41号

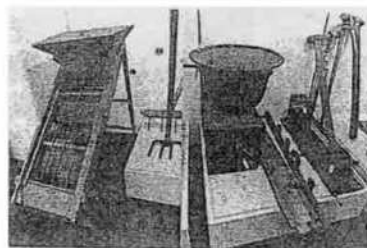
懐かしい郷土の生活と

柿生郷土史料館  
 第4回特別企画展

先人の知恵をふり返える

10月15日より柿生郷土史料館で第4回特別企画展「郷土の古民具と信仰展 ～農事・生活と信仰の姿～」が開催されます。

現代では、科学の力を借り大変便利な生活が実現されています。昔の日本人の生活は、現代と比較すると決して便利なものではなかったと感じますが、果たしてそうだったのでしょか。人々は豊かな発想とアイデアを駆使し生活を豊かにする工夫を常に考えていました。



(「柿生郷土史料館」に展示された古民具)

江戸時代初期、宮崎安貞が著した「農業全書」(柿生郷土史料館に展示)には古い時代の農具の姿を見ることができます。例えば『はしこき(稲の束からモミを箸状の2本の棒で取り出す道具)』や『鍬(くわ)』等は、江戸中期には『千歯こき(稲の束を鉄製の歯にはさめてモミを取り出す道具)』『備中ぐわ』などの改良された道具が次々と登場し生産力が大幅に向上しました。一方、『くるりぼう(乾燥させた、からつきの大豆を叩いて豆を取り出す道具)』などは、つい最近の昭和30年代まで使用していました。

この特別企画展「郷土の古民具と信仰展」では、こんな人々の生活の知恵を見て感じていただくとともに古くから郷土に伝えられている人々の信仰の姿もご紹介したいと考えております。開催中には、地元の方々からの具体的な解説や農具使用の実演をしてもらおう機会も設けたいと考えています。是非お越しください。

第4回 特別企画展

期間 10月～12月 場所 柿生郷土史料館

内容 「郷土の古民具と信仰 展」 一農事・生活と 信仰の姿一

会館日

10月 15日(土)・22日(土)・29日(土)

11月 6日(日)・13日(日)・20日(日)・27日(日)

12月 3日(土)・10日(土)・17日(土)・24日(土)

郷土の古民具に関するガイド (地元の方々語る)

①10月15日(土) 11:00～12:00・14:00～15:00

②10月29日(土) 14:00～15:00

③11月 6日(日) 11:00～12:00 ※以後の予定は次号の「柿生文化」でお知らせします。

大地震の前兆現象を探るII

柿生にもあった — ナマズと大地震は本当に関係あるのか —  
「ナマズ大暴れ」地震前兆現象か 関東大震災で 阪神淡路大震災で

— 迷信ですまされないこの事実! —

昔からナマズは「地震を引き起こす」等のことが一般的によくいわれてきました。まあ、皆さんは、この科学の時代にこんな話は「迷信だ」と思われているに違いありません。しかし、どうもナマズと地震が何か関係があるような多くの証言もあります。

それは関東大震災、阪神淡路大震災で地震とナマズの関係を裏付けるような次のような事例があったのです。

(関東大震災)

◎川崎の黒川や埼玉県川口で多数のナマズが発生した。

◎上麻生でナマズが大量発生した。(柿生在住の方の証言)

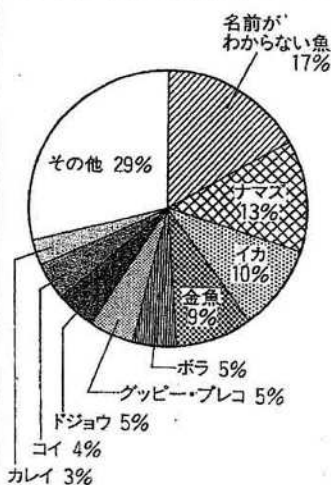
(阪神淡路大震災)

◎地震の2~3日前の深夜、ナマズが激しく回転して暴れ回った。

◎地震前、神戸市北部のダム付近でナマズがよく釣れた。地震前は絶対といっているほどよく釣れる。

◎地震5時間前、水槽のアマゾンナマズが突然暴れだし手が付けられない状態であった。

◎地震直前、水槽のナマズがすごい跳ね方をした。



(地震前兆で反応のあった魚類)  
「前兆証言1519」より

実は先日、地震の前兆現象についてのガイドセミナー(9月18日開催)が行なわれた際、柿生在住の方々からも同様の証言を複数得ることができました。

どうもナマズが地震を起こすということではなく、地震発生を何らかのかたちで本能的に察知し、興奮状態や異常行動をとるなどの現象が発生するようです。

最近の東日本大震災の前兆証言のデータはまだ集約はされていないようですが、阪神淡路大震災の場合は、ナマズだけでなくイカ、金魚、ボラ、ドジョウ、コイ、カレイ等の魚類の異常行動も報告されています。

このように考えてみますと、動植物や他の自然環境における前兆現象はまだ他にも多くの目撃者がいるのではないかと考えられます。阪神淡路大震災の地震予兆に関する証言をまとめた大阪市立大学の弘原海清教授の著作「前兆証言1519」を見ると大変多くのデータが掲載されています。

次号では他の自然環境の異常についても考え、その現象がなぜ起こるのかということも最新情報をも含めながら考えていきたいと思ひます。



(安政江戸大地震後に発行された「絵巻」)

# 王禅寺村ゆかりのお江(ごう) の姿が浮き彫りに

—— 近世史の権威 村上直 氏 (法政大学名誉教授) がお江の実像に迫る ——

先日、9月22日(日)柿生郷土史料館で開催されたカルチャーセミナーでは「お江の時代と王禅寺お化粧料」と題して法政大学名誉教授の村上直氏から講演をいただきました。

「お江」は実際に2代将軍秀忠の正室としてその存在感はかなりのものであったはずで、夫の秀忠もずいぶん頭が上がらなかったのではないかとことです。それは、当初「お江」と秀忠の間には女の子ばかりが誕生し、結局、長男は側室との間に生まれ、名前は「長丸」とつけられました。本来、長男が後継ぎとなるはずなのに秀忠は徳川家の後継ぎにつけられる「竹千代」名は付けなかったところから正室の「お江」には随分と気をつけていたようです。



(「お江」の肖像画)

ならば「お江」になぜそこまで気を遣う必要があったのでしょうか。その事情を少し考えてみましょう。

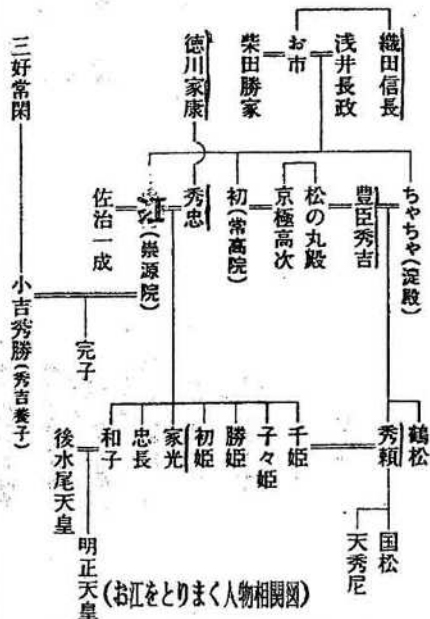
- ①「お江」の母は「お市の方」で織田信長の妹で、伯父が信長であったわけです。
- ②「お江」は徳川に嫁いでくるまでは豊臣秀吉の養女という存在でした。養女とはいえ秀吉の娘ではあるわけです。さらにそれ以前は、戦国の武勇の誉れ高き柴田勝家の養女であった時代もありました。
- ③年令的に「お江」は秀忠より6歳年上の年上女房であったということ。
- ④下の系図を見ていただければ判りますが「お江」の姉は豊臣秀吉の側室「淀君」でした。秀吉の死去までは圧倒的に豊臣の力は徳川を凌いでいました。

以上の点を考えても「お江」は秀忠より年令が上であるということだけではなく、はるかに多くの経験を積んでいるわけです。それも戦国時代末期の超大物武将とのつながりがたくさんあったわけです。当然、気性も強いでしょうし、経験から得た風格もあったのではないのでしょうか。

やがては、徳川家康を義父とし、徳川2代将軍の正室、そして3代将軍家光の母、さらには娘の和子(まご)は後水尾天皇に嫁ぎ、その子供が明正天皇ですから天皇の祖母にもなるというわけです。

今までは「お江」の存在は歴史上の人物としては姉の「淀君(淑)」の存在が大きかったせいかもしれませんがほとんどクローズアップしませんでした。これだけの経歴をもった人物は歴史上稀でしょう。

1626年に亡くなった「お江」の葬儀の時には王禅寺村の名主を始めお化粧料に関係する百姓350人がお棺担ぎや葬儀のお供をしたそうです。王禅寺村と「お江」との縁は大変深かったようです。





### 市内の催物紹介

## 地名は古(いにしえ)の記憶

必見! 「全国地名研究者大会」が開催

10月29・30日に川崎市中原区の市国際交流センターで日本全国の地名研究者が一同に会し「第30回全国地名研究者大会」が開催されます。

地名は、土地や地域の歴史や地形等を記憶している貴重な語り部ともいえるでしょう。

近年、多くの都市や村落が合併され、新しい地名が付けられるようになってしまいました。したがって、それぞれの土地に隠されていた大切な情報は今後、忘れ去られてしまう危険性があります。

今回、この大会で、主催者の日本地名研究所の谷川健一氏をはじめ多くの地名研究者や歴史学者が講演の中でそれぞれ地名に関する貴重な記憶を呼び覚ましてくれることと思います。興味のおありの方は参加してみてもいいでしょうか。

日時 10月29日・30日

会場 市国際交流センター

(川崎市中原区木月祇園町2-2)

大会参加費 2000円

交通 ・東横線「元住吉」下車徒歩10分

・JR南武線「武蔵小杉」下車タクシー3分

連絡先 ・日本地名研究所

電話:044-812-1106

※参加希望の方は上記「日本地名研究所」にお問い合わせを

### 柿生郷土史料館開館のご案内

#### 開館時間

開館:午前10時

閉館:午後3時

特別展覧会 10月15日(土) ①11時 ②14時

特別展覧会 11月6日(日)11時

特別展覧会-S 10月22日(土)「中世の柿生・岡上」

特別展覧会 11月13日(日)14時

特別展覧会 10月29日(土) ①14時

特別展覧会 11月20日(日)11時

※10月1日(土)・8日(土)は特別展準備のため休館とします

特別展覧会 11月27日(日)14時

### 柿生郷土史料館の10・11月の催物

※ 問い合わせ 988-0004 (柿生郷校)

(特別企画展)

#### 第3回 特別企画展

■テーマ 「郷土の古民具と信仰展」 — 農事・生活と信仰の姿 —

■期 日 10月(日曜日)・11月(土曜日)・12月(日曜日)

※10月は15日・22日・29日の3回

(各種セミナー)

#### 第30回 カルチャーセミナー

■テーマ 「中世の柿生・岡上～鎌倉時代の姿～」

■講師 中西望介氏 (郷土史家)

■日時 10月22日(土) 14:00～

■会場 柿生郷土史料館